

主催者挨拶

第36回関東地区学校図書館研究大会
茨城大会 運営委員長 橋本 浩志

第36回関東地区学校図書館研究大会を開催できることに際しまして、御支援、御協力を賜りました関係者の皆様に対し、主催者を代表して厚く御礼申し上げます。また、日頃より学校図書館の整備・充実・活用に御尽力いただいている皆様の御参会を心より歓迎いたします。

今回の大会を開催するに当たりましては、昨年度はコロナ禍のため思うように打合せがもてないような状況でしたが、オンライン会議を行うなどして、少しずつ準備を進めてまいりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、急きょWeb開催に切り替えることになりました。Web開催に方針を切り替えてから僅か半年後の開催ということで、準備は十分とは言えませんが、開催することをまず優先し、ストリーミング視聴と講話等の生配信を組み合わせた形式での研究大会となりました。

さて、平成30年4月の第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」においては、子供の読書活動に関する状況について、「中学生までの読書習慣の形成が不十分」「高校生になり読書の関心度合いの低下」「スマートフォンの普及等による子供の読書環境への影響の可能性」等の分析を踏まえ、小学校、中学校、高等学校等における推進のための主な方策として、「学習指導要領を踏まえた読書活動の推進」「読書習慣の形成、読書の機会の確保」「学校図書館の整備・充実」等について示されています。

また、小・中・特別支援学校では新学習指導要領が全面実施となり、高等学校でも全面実施に向けた準備が進んでいるのは周知のとおりです。小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編では、これからの学校図書館について、「読書活動の推進のために利活用されることに加え、調べ学習や新聞を活用した学習など、各教科等の様々な授業で活用されることにより、学校における言語活動や探究活動の場となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割が一層期待されている」と述べられています。令和2年3月には、「図書館実践事例集～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～」（文部科学省）がまとめられ、実践の更なる充実が求められているところです。

このように、学校図書館が果たすべき役割はますます大きくなっています。加えて、GIGAスクール構想の下で1人1台端末が整備されるなど、学校図書館を取り巻く環境は更に多様化、複雑化してきております。しかし、激動の時代を生き抜く子供たちに必要な「生きる力」を育成するために、改めて学校図書館の在り方を見つめ直し、活性化に向けた方策を検討し、その具現化を図っている必要があると考えます。

こうした中、今年度、「多様な学びで『生きる力』を育成する学校図書館」を研究主題に掲げ、本大会を開催できますことは、大変意義深いものと考えます。本大会が、今後の学校図書館の整備・充実・活用の推進に資するものとなることを期待いたします。

結びに、本大会の開催に当たり、文部科学省、茨城県教育委員会、公益財団法人日本教育公務員弘済会茨城支部をはじめ、多くの関係機関・関係団体等のご支援をいただきました。誠にありがとうございました。本大会が、ご参会の皆様にとって実り多き場となりますことをご祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。